福井県流域環境ネットワーク協議会　第７回河道技術部会　議事概要

日時：令和元年９月 17 日（火）15：00～16：30
場所：福井河川国道事務所　３階　第２会議室

１．開会

２．主催者あいさつ（福井河川国道事務所　嶋田所長）

３．協議

（１）　河道技術部会　資料説明

「日野川片粕地区上流部の湿地創出について」事務局より説明

（２）　意見交換

＜福原部会長＞

事務局からの説明について、みなさんからご意見、ご質問をいただきたい。

＜吉岡委員＞

コウノトリの飛来が確認された際の水位や植生の繁茂状況はどうなっていたのか。これから整備する湿地の目標する環境は今回、コウノトリが確認された時のような状況と考えて良いか。また、コウノトリは湿地内で採餌していたのか。

＜事務局（国土交通省）＞

定点カメラ画像が実際にコウノトリの飛来が確認された際の水位や植生の繁茂状況となっている。これから整備する湿地でもコウノトリが確認された場所と同様に水深が浅い箇所が創出できるよう検討している。

＜松村委員＞

コウノトリが水中に嘴を突っ込んでいるのであれば採餌行動と考えて良い。また、鳥類の調査結果のみ個体数が整理されていないのはなぜか。

＜中村委員＞

片粕下流湿地ではヤナギが繁茂しており、これから更に樹林化することが懸念される。可能であれば、樹林化している場所を別の植生で置き換えることで、樹林化を抑制する方法（草地化工法；ヨシやオギによる置き換え）も検討してはどうか。また、効果が確認で

きれば、これから上流で創出する湿地にも工事の段階から、こういった方法を取り入れることが効率的である。

＜吉岡委員＞
　片粕上流部の湿地では上流側を閉鎖し止水性を高めるものとしているが、どのくらいの頻度で掃流が生じるのか。植生により定着できる掃流が異なるので、出水時の掃流を整理することでどのような植生が繁茂するかの参考になると思う。

＜事務局（国土交通省）＞
　豊水位程度での掘削を計画しているので年間 90 日程度は越水することが想定される。また、片粕下流部の植生の繁茂状況を踏まえ、冠水頻度が上がるよう湿地全体の高さは若干低めに設定している。

＜奥村委員＞
　水温が 40℃まで上昇しているが、浅場で魚が浮き上がっているような状況は確認されていないか。溶存酸素の不足により生物の生息に適さない環境となっていることが想定されるが、深場と連続していれば避難できると思う。（奥村委員）

＜事務局（国土交通省）＞
　小堤が流失後は水温が安定しており、流失前に現場で確認している限りは魚が浮き上がっているような状況を確認していない。

＜佐川委員＞
　生物の調査結果を整理しているが、評価が雑なように思う。例えば、両生類・爬虫類・哺乳類の調査結果では工事を実施する前後のデータを整理しているが、工事を実施していない別の場所も踏まえて評価する必要がある。また、魚類の調査結果では本川で工事後に種数が減少しているので、これに対する考察を行う必要がある。また、水辺の国勢調査と比較しなければ、どの種に着目すれば良いかわからないので評価ができない。
　調査時期や努力量が異なると評価できないので、せっかく調査しているのにもったいないように思う。

＜事務局（国土交通省）＞
　中間段階の調査結果であるため、モニタリング計画や評価軸を整理し、２年後の調査を実施した後に改めて報告させていただく。

＜松村委員＞

調査結果の種数だけでは、どの程度の個体数が生息しているのか評価できないため、整理してほしい。また、カエルの評価についてオタマジャクシの確認状況を教えてほしい。オタマジャクシの確認状況により湿地が再生産の場となっているのか、水田で再生産したものが移動してきているのか考察できると思う。

＜吉岡委員＞
片粕上流部にこれから創出する閉鎖性湿地にコウノトリの餌となるドジョウやトノサマガエルの再生産や越冬場としての機能を期待するのであれば、法面の植生等、着目する指標を挙げる精査するのが良い。

＜佐川委員＞
トノサマガエルは河川湿地での再生産は難しいので、河川湿地の特性を踏まえた種に着目する必要がある。

＜佐川委員＞
ナマズが確認されていないが、生息していないのか。湿地環境で再生産する種であるため、生息するような環境を創出するのが良い。

＜松村委員＞
湿地内の水深が深くなりすぎると、捕食者となる大型の魚類が定着するため、再生産の場として機能しにくくなることが懸念される。円山川で実践されている湿地の方が現実的ではないか。円山川の湿地は非常に浅い田圃的な水深となっており、トノサマガエルやドジョウにもよい繁殖場所となっている。

＜田原委員＞
魚類のサイズが不明であるため、評価にあたり整理してほしい。

＜中村委員＞
片粕上流の閉鎖性湿地形状は不自然なように思えるため、無くてもよいのではないか。片粕上流は高水敷幅が狭いため、閉鎖性の湿地を創出するのは高水敷幅の広い久喜津地区でも良いように思う。もし、閉鎖性の湿地を創出するのであれば、自然での湿地の形成過程を踏まえ、形状を再検討してほしい。また、高水敷側の深場についても不自然なように思える。

＜事務局（国土交通省）＞
高水敷側の深場はヤナギを抑制するために設けているが、深場を設けずに湿地法面を草

地化する案についても検討する。

＜福原委員＞
洗堀と堆積の土砂のボリュームを整理し、変動のメカニズムについて考察してほしい。

＜中村委員＞
大規模な湿地再生事業であるため、生態的な観点だけでなく、地域・社会的な観点での検討も行ってほしい。